

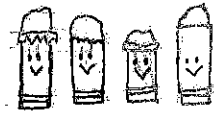
2023.2.27   
えんまちまぶねりんぽえん

まだ、雪が散らつく日もありますが、随分暖かく春の訪れを感じられる日も増えてきました。☺
2月は節分の行事があり、子どもたちの心の中にいる鬼を追い出す為に豆まきをしました。☆
たいやう鬼や保育者鬼もやってきて、少しドキドキした1日を過ごした子どもたちです。
今はインフルエンザが猛威を振るっています。まだお休みしているお子さんもいるので、
少しでも症状が柔らぎ、子どもたちが元気に登園してくれるようお祈りします。🍀

と、しいの、実 たんぽぽ みずぐみ だよ！



しいの実ぐみ



制作展ありがとうございました。

お絵かきを夏の終わりに負かしていったのですが、最初はどう描いていいのかわからず戸惑いながら描いていました。何回かやっているとなんか点描きになり、糸糸描きになり気持ちが出てきました。今では準備しているとその様子を見て「やりたい」と言いたくなる強い視線が送られてきます。糸会の具やマジックを使ってお絵かきを果しめるようにになり、たんだん腕を動かせるようになり、画用紙からはみ出しそうなるほど、のびのびと描いていました。糸会の具の色が混ざると「わっ」と目を光輝させる子どももいた。これとそれと果はたながら描くことができていました。

作品は多くもてちに色々なことを選んでもらい自分たちの
積み木を作りました。まず最初に形や大きさを選んだの
ですが、興味津々で遊ぶのが始まっていました。次に周りの
模様をネロ紙に糸の具で描きました。色を見せ、スタンプ
筆を見せると「これ!」と迷わず選ぶ子どもたち...「やほ
ー」といって迷う子どももいました。筆を選んだ子どもに
手で角虫のように言うのと「角虫? いいの?」と不思議そうに
しながらも筆先を角虫、手にいすりの絵の具、呆者の顔を
交互に見ていました。呆者の笑顔に安んじたのがネロ紙に
点々と筆先でスタンプをした、/ ヲ!! と叩いてみたりと楽しんでいました。

絵も作品もとても素敵なのが出来上がりました。保育園に
来た当初は涙には不安そうだった子どもたちが、絵を
のびのびと描いたり、自分で選んで楽しく作り作したり、色々な
ことを楽しめるようにすこし成長を更に感じた第11作展と
なりました。

積み木で遊んだよ!



自分たちで作った積み木で遊びました。出して並べると準備をしていると1人、また1人と何回にも来てあやうとボールの集まりで勝負で積み木を始め、3つ積みめると笑顔で拍手をして喜んでいました。お友だちの積み木を見て積みめると指さして、一緒に拍手をして、積み木で積み木を自分で倒してけけけ笑ったり色々遊ぶ方を楽しんでいました。お家でモゼー系者に遊んでくださいわ！

たんぽぽくみ

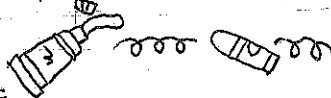
鬼がきたよ



3/3は豆まきでした。数日前から「おにくる」とドキドキしていた子どももいた程、印象的な行事の日です。まずは保育者が用意した段ボール鬼にカラーボールを投げて楽しんでいました子どもたちですが、鬼の口が大きく開いていたので、除々に遊びが変わり、「パクパク」と口の中にボールを入れて食べさせていました。

そうして遊んでいると、何やら隣の部屋がにぎやかに...
 たいよう組の可愛い鬼たちが「おにだぞー!!」とたんぽぽ組の
 部屋に入ってきました。びっくりして涙する子どももいましたか
 ほとんどの子どもは「...」と不思議そうに固まっていました。
 たいよう組鬼の後は保育者鬼が... たいよう鬼では表情が
 変わらなかった子どもたちも、さすがに怖くて保育者の背中に
 一生懸命隠れます。とても刺激の激しい1日を過ごした子どもたち
 ですが、恵方巻きを食べたり、だるまの節分騒ぎへ行ったりと
 豆まきの行事に触れバの中にいる鬼を追い出せたかな? 
 と思います。

せいさくてん



2/16~2/17は制作展があり、たんぽぽ組はかき氷とパフェを作りました。
1年を通してごっこあそびを楽しんでいましたが、"どん"と"んあそび"が
広がり、友だちとの関わりも多くなりました。

お家の方に作っていただいた手作り人形にも布団を掛けて寝かせたり、ご飯を食べさせたりとお世話も楽しんでます。
見立てあそびが楽しくなってきた子どもたちなので、かき氷やパフェ作りにも興味津々です。やりたい気持ちの方が強くて友だちが制作をしていると仕せりの向こうからじーっと見ていたり、「つぎあたし(ぼく)のリクエストの声もたくさん聞こえていました。一人ひとり色が食料リつけの場所など考えて作り、個性の光るかき氷とパフェが出来上がりました。制作展が女台まると、みず組と一緒に制作展を見に行きました。ふか思クラスの作品を見ると「かおいい」とニコニコして見ていたり角刈りたそうにしていたりとさまざまです。でも、やはり一番思い入れのある自分たちの作品の前では「これ〇〇ちゃんのー!」「もってかえりたい」と飾られていることがうれしくて笑顔あふれる子どもたちでした。



みずくみ

制作展

『みずくみ レストラン』



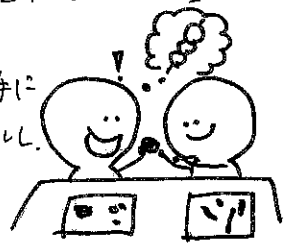
春から少しずつ回数を重ねて、楽しんできた粘土を制作の中心にしました。始めた頃は、手屋で引、張る・つまむことがメインだった粘土遊びも保育者と一糸者に両手の平で丸めてお団子にしたり、粘土板の上で車芸がしてヘビを作ってみたり、イメージを少しずつ共有しながら楽しんできました。

何度か粘土をしている中で「も、とこうしたこうなるかな?と子どもたちが自分で考え、太かったヘビを糸で長くしてみたり、ボコボコしていたお団子もなめらかにしようとする姿が増えてきました。廢材のトレイや紙皿を渡してみると、子どもたちもイメージしやすかったようで「周りのお友だちと「これちゅちゅー」「これおうどん!」とどきどきお話ししながら作る姿がとても印象的でした。力加減も上手に出来るようになってきて、手先をコントロールし、太い粘土をねじりながらちぎったり、均等な太さに伸ばそうとしたり、自分の思う形に近づけようとしていた子どもたちです。

それだけでなく、一生懸命手の平に集中して細長くたていく粘土から「おうどん」にたてたり、平たくたてた粘土を重ね「ハンバーガー」に、指先で小さくちぎって丸めた粘土を「こはん」にしたりと出来上がった形からイメージを膨らませる子どもたちでした。最終的にはなんとも作っていた粘土でしたが、だんだんとイメージする力が付いてきて「みてみて! 〇〇できたよ!」と嬉しそうなお声があちこちから聞かれます。

楽しい雰囲気の中、「みずぐみレストラン」ができました。

あと少しのみず組の間、も、と、も、とイメージを共有し合って色々な物を作り、楽しみたいと思います。



3月～おやつ口の拭きタオルをなくします。
給食用の1枚だけ用意して下さい。 **